

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	国分市立国分中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	6	5	1	18	38 名
生徒数	208	206	195	2	611	

研究の概要

1. 研究主題

意欲的・主体的に学習に取り組ませ、基礎・基本の定着を図るための指導の在り方

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年 全学年

加配による教科

- ・ 1年数学(少人数指導)
数学の基本である正負の数を確実に定着させるなど個に応じた指導を行うため
- ・ 3年英語(少人数指導)
学力向上に向けて、英作文等きめ細かい指導を行うため
- ・ 1・3年理科
実験・観察など学習内容により個人の差が生じやすいため
次年度以降は、研究の趣旨を生かし、各教科、総合的な学習の時間などでも全生徒にかかわり、生徒一人一人の学力を伸ばすための取組を行う。

(2) 年次ごとの計画

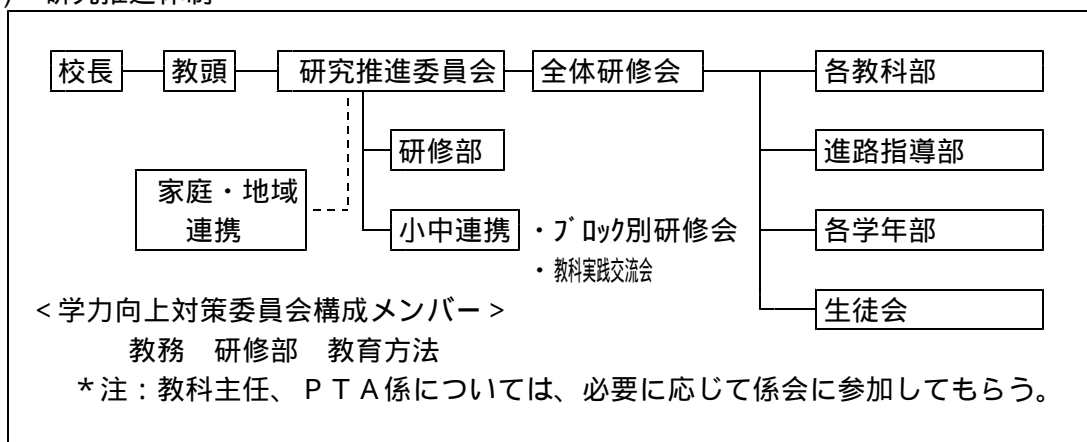
平成15年度	<p>テーマ 意欲的・主体的に学習に取り組ませ、基礎・基本の定着を図るための指導の在り方</p> <p>研究の見通し(仮説) (仮説)</p> <p>教科の指導の中で、一単位時間の指導を工夫したり、個に応じた指導法を改善すれば、基礎的・基本的な内容が身に付き、意欲的に学習に取り組む生徒を育成することができる。 (見通し)</p> <p>1年次の研究として、研究テーマ、仮説、研究内容と方法、研究組織等を明確にするとともに、理論研究、研究授業を通じた実践的研究を進める。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度の計画作成(教育課程・研究組織) ・ 学習に関するアンケートの実施(5月30日)対象 全生徒 保護者 ・ 標準学力検査の実施と分析 ・ 生活ノートの改訂

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の手引きの作成（２月完成の予定） ・ 県基礎学力定着度テストを本校の生徒実施（３月 ２年生） ・ 学力向上に関する県意識調査と本校の比較検討 ・ 研究授業 <ul style="list-style-type: none"> 理科（外部人材を活用した研究授業 １ / １６ ） <li style="padding-left: 40px;">校区内小学校職員も参観 数学（少人数（習熟度別）による研究授業 １ / ２０） <li style="padding-left: 40px;">校区内小学校職員も参観 英語（少人数指導による研究授業 ２ / １０） ・ 教科実践交流会（２月予定） <li style="padding-left: 20px;">校区内小学校と研究授業を行い、お互いの授業を参観・意見交換を行う。 ・ ブロック別研修会や小中連携の会の実施（３月実施予定）
--	---

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>意欲的・主体的に学習に取り組ませ、基礎・基本の定着を図るための指導の在り方</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>(仮説)</p> <p>教科の指導の中で、一単位時間の指導を工夫したり、個に応じた指導法を改善すれば、基礎的・基本的な内容が身に付き、意欲的に学習に取り組む生徒を育成することができる。</p> <p>(見通し)</p> <p>１年次の研究を基盤に、理論研究、研究授業を通じた実践研究を進めるとともに、研究内容の検証を行い、生徒の変容をとらえる。また、研究内容についての公開を行い、参加者等からの意見を受け、研究の深化を図る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒、保護者へのアンケート実施（年度はじめ） ・ 標準学力検査の実施・分析（５教科 全学年） ・ 県基礎学力定着度と本校の比較検討 ・ 実証授業の実施（１学期中） ・ 研究公開２学期中旬に実施予定 ・ 学習のしおりの改訂・配布（対象 新１年生 ３学期） ・ 総合的な学習の時間での基礎学力定着の取組（全教科・全職員） <p>総合的な学習の時間において基礎学力定着の取組を行い、各教科と関連する内容について到達目標を決め、学習・練習をさせる。また学習内容について定期的に診断的評価(検定)を行い、生徒の興味のある内容から個人の能力を伸ばす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科での取組 <ul style="list-style-type: none"> 数学（少人数指導（習熟度）による授業 １学年にて実施予定） 英語（少人数指導（習熟度）による授業 ２学年にて実施予定） 理科（実験でのＴＴ授業 全学年で実施予定） 理科（外部人材を活用した授業 予定） <p>授業における学習心得（授業でのきまり）の再確認と全校体制での実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を行う環境・雰囲気を作ることを目的にする。
--------------------	---

校区内小学校との連携を行う。
ブロック別研修会・教科実践交流会等

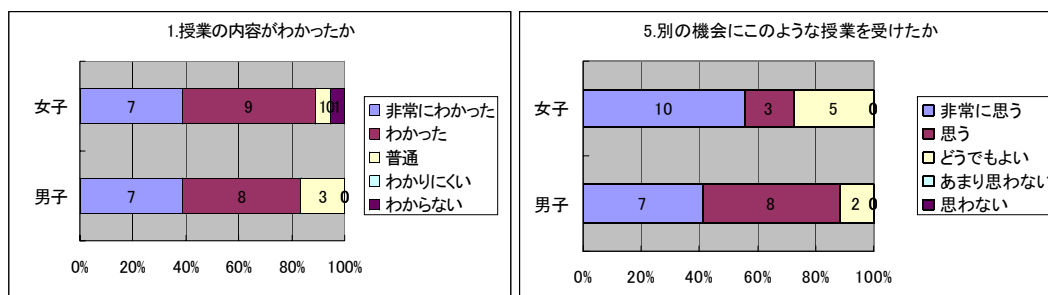
(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

生徒、保護者の学習に関するアンケートを行った。(5/30実施)
生徒の学習に対する態度、現状などの把握を行い、授業改善に役立てた。
各教科(5教科)標準学力検査の実施(4/10)分析を行い、職員研修にて
生徒の学力について実態把握を行い、対策を実践化した。(8/21)
2学期はじめの教科部会で各教科、努力目標を決めそれぞれの教科で目標に向けて取り組んだ。
理科の天体の分野にて外部人材活用した授業を行った(1/16 3年1組)
特に、外部人材の活用については、次のように、外部人材活用の授業が生徒の理解・関心に非常に有効であることが分かった。



また、数学の少人数では習熟度別の授業(1/20 1年5組)を行い、学力向上フロンティア事業が目指すきめ細かな指導法の在り方について研究した。
英語科では、少人数での研究授業(2月10日)を行った。
また、学習のしおり(全生徒配布)と研究冊子の作成を行う予定である。

2. 今後の課題

学力の定着度を確実に評価するための具体的な評価はどうあればよいか。
少人数指導を行う時の効果的な生徒の分け方、学級編制はどうあるべきか。
校区内の小学校、また、他の小・中学校との連携はどうあるべきか。
保護者、地域との連携はどのように進めていったらよいか。

学力把握のための学校としての取組

年度はじめにアンケートによる生徒の学習の傾向の把握	
個人の評価	理解度に応じて生徒を数名抽出しての追跡調査を行い、生徒の理解度を把握する。
集団の評価	標準学力検査等の活用，前年度との比較(4月，6・7月) 全体的傾向を知るために実施する。
各教科における評価テストの活用	
毎時間毎における形成的評価の実施	

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究公開の実施(平成16年度2学期予定) ・ 研究冊子の作成 ・ 校区内小学校との連絡会の継続 ・ 他の小・中学校への研究成果の普及



次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		